

儲かるりんご経営体の育成と魅力ある産地づくり

県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

JA常陸大子町りんご部会（部会員数：41名、産地面積：52ha）は、主力品種の「ふじ」を中心に特色ある品種を揃え、高品質安定生産と組織的なPR活動を行っています。普及センターでは、各経営体の所得向上を目的に生産及び販売促進活動を支援しています。

令和4年度はりんごの新植による経営規模の拡大や、スマート農業機械の導入による生産性向上、蜜入りの多い「こうとく」等の希少品種を活用した「奥久慈りんご」（大子町で生産されたりんごの通称）のブランド価値向上を支援しました。

経営規模拡大等による経営向上

JA常陸大子町りんご部会を対象に、中山間地域農業基盤整備促進事業や果樹経営支援対策事業の活用推進、栽植密度や品種に関する個別相談対応を行い、りんごの新植・改植を支援しました。

その結果、7経営体が事業を活用し計100aで新植・改植を実施しました。当該面積の5年後の販売額は約600万円になる見込みです。



図1 水田畑地化後に新植したりんごほ場



図2 りんご園で稼働するロボット草刈機

スマート農業技術の導入による生産性向上

ロボット草刈機を部会で先駆けて導入している経営体の事例を講習会等で紹介し、導入希望者の掘り起こしを行いました。

さらに、既存の乗用モア（草刈機）と比較したコストを試算し、同等のコストで除草作業の省力化が図れることを提示することにより導入を推進した結果、令和5年以降に8経営体が導入の意向を示しました。

「奥久慈りんご」のブランド価値向上

「奥久慈りんご」の付加価値向上のため、部会の若手生産者等で組織されているりんご青年部の都内高級果実専門店への「こうとく」出荷を支援しました。

その結果、100玉が出荷され、1,080円/玉で店頭と並んだ果実は完売しました。高級果実専門店での高単価販売事例を大子町内外へPRすることで、「奥久慈りんご」のブランド価値が向上し、各経営体の所得向上に寄与することが期待されます。



図3 高級果実専門店での「こうとく」販売